

日野市ふるさと文化財課紀要

第1号

2022年度

日野市ふるさと文化財課

刊行にあたって

日野市ふるさと文化財課は、教育委員会の日野市郷土資料館、生涯学習課文化財係と、産業スポーツ部の新選組のふるさと歴史館を統合し、教育委員会と市長部局が共管する組織として、令和3年4月1日に発足しました。それから凡そ2年が経ちましたが、このたび、職員の活動成果の記録と発信のため、紀要を刊行するはこびとなりました。

まずはPDFをホームページ上で公開する形式でのスタートとなりましたが、学芸員3名の論考のほか、府中郷土の森博物館館長の深沢様、東京都埋蔵文化財センターの長佐古様からのご寄稿をいただき、充実した内容となりました。

ふるさと文化財課は、これまで三つの課・係に分散していた学芸員を結集して、それぞれの専門性を活かすことにより、従来「点」として個別に保存の措置を講じてきた文化財を、「面」として総合的に把握し、地域を単位として保存、普及啓発、活用をはかることを目指しています。これまで日野市は「新選組のふるさと」であることを大きな魅力として市内外に発信してまいりました。しかし、日野市には、新選組以外にも、地域を理解するうえで重要で、興味深い事象がいくつもあり、それらは多摩川と浅川に育まれた日野市の地勢・歴史の中で、相互に関連し合っています。

例えば、新選組と日野自動車は地域史の一つの文脈の中で語ることができます。新選組の支援者は自由民権運動を経て、市内に養蚕やビール、煉瓦などの近代産業を興し、その動きは、やがて昭和恐慌期の工場誘致や、多摩平団地、旭が丘工業団地の建設などへとつながります。また、新選組の誕生以前には、中世末期の用水の開削があり、それを基盤に積み重ねられた歴史の末に、新選組が誕生しています。

日野市の歴史・文化は時代や地域を超えて有機的につながっており、その大きな「日野市の物語」を叙述することこそが、「ふるさと文化財課」を設置する目的です。

ふるさと文化財課は教育委員会と市長部局の共管となっています。文化財を活用するうえでの大前提となるのは、文化財の保護です。教育委員会の一組織として文化財保護法を遵守し、文化財を横断的・縦断的に把握することにより、これまで取り上げられてこなかった文化財を再発見・再評価し、それを市長部局が持つ発信力とネットワークを活かし、様々な手法を用いて発信することにより、地域の魅力を高めてまいります。

このような取り組みに学芸員の一人一人が携わる中で、専門性を活かしながらも専門を超えた調査・研究を積み重ね、その成果をこの紀要により発信してまいりたいと考えております。

令和5年3月

日野市ふるさと文化財課長 金野 啓史

目 次

刊行にあたって

目次

胎土の元素組成からみた近代多摩地域煉瓦の特徴 長佐古真也

百草園にある二つの句碑から
～青木角蔵・三堀武蔵とデローロ商会 秦哲子

江戸時代人と現代人の体力差 イメージと実際 松下尚

百草八幡神社境内採集の中世瓦 小黒恵子

日野市百草の経塚遺物 深澤靖幸

日野市ふるさと文化財課紀要 第1号

令和5年3月31日発行

編集・発行 日野市ふるさと文化財課

〒191-0016 東京都日野市神明4-16-1
Tel : 042-583-5100 Fax : 042-584-5224
Mail : bunkazai@city.hino.lg.jp